

March 18, 2017
日本国際経済学会関西支部シンポジウム

Global Value Chain
—その実態とインプリケーション—

今日のグローバル企業は、コアへの投資とグローバル規模のアウトソーシングとオフショアリングを組み合わせた Global Value Chain (GVC) を形成しています。GVC のなかで企業活動と国の経済成長の関係が改めて問われ、また開発途上国では「中所得国の罫」を抜け出して GVC の中でいかに付加価値の高い地位を占めるかが政策課題となっています。他方、GVC に関する研究では、居住者ベース統計では把握できない国籍ベースの付加価値フローの分析が進展を見せています。こうした状況を踏まえて、日本国際経済学会関西支部では下記の通り、GVC をめぐる新しい研究動向やインプリケーションについて広く論じるためのシンポジウムを企画しました。

グローバル企業の展開に関心を抱く多くの皆様のご参加を歓迎します。

記

日時 2017年3月18日(土) 午後2時～5時

場所 関西学院大学大阪梅田キャンパス 1405教室 (96名収容)

アプローチタワー 14階 (阪急「梅田駅」茶屋町口改札口より北へ徒歩5分、JR「大阪駅」御堂筋出口から徒歩10分、地下鉄御堂筋線「梅田駅」から徒歩7分、「中津駅」から徒歩4分。)

報告者

- 猪俣哲史 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)
「国際産業連関分析とグローバル・バリュー・チェーン」
- 石田 修 (九州大学大学院経済学研究院)
「多国籍企業とグローバル・バリュー・チェーン」

討論者 (予定)

- 伊田昌弘 (阪南大学経営情報学部)
- 高橋信弘 (大阪市立大学商学部)

司会 中本 悟 (立命館大学経済学部)

報告者紹介

● 猪俣哲史

専門：国際産業連関分析、グローバル・バリュー・チェーン分析、付加価値貿易分析

略歴：1991年7月英国ロンドン大学政治学部学士課程（BA with honours in Politics and Economics）修了、1992年9月英国オックスフォード大学大学院経済学部修士課程（MSc in Development Economics）修了。2014年3月一橋大学博士課程（経済学）修了。

2000年～2002年英国ロンドン大学客員研究員

現在、アジア経済研究所開発研究センター上席主任調査研究員、国際産業連関学会理事、国際ジャーナル *Economic Systems Research* 編集委員、国際連合産業連関統計作成要綱策定委員・執筆者。

Inomata, S. (2017), “Development of Analytical Frameworks for Global Value Chains: An Overview,” *GVC Development Report*, Vol.1, The World Bank Group, Washington D.C.

Inomata, S. (2014), “Trade in value added: concept, development, and an East Asian perspective,” Baldwin et al. eds., *A World Trade Organization for the 21st Century*, Edward Elgar, Cheltenham, The United Kingdom. など研究論文多数。

● 石田 修

専門：貿易投資分析・国際経済学・世界経済分析

略歴：博士（経済学） 1986年3月九州大学大学院経済学研究課単位取得退学

1993年～1995年英国ケンブリッジ大学客員研究員

現在、九州大学経済学研究院教授、日本国際経済学会理事、日本多国籍企業学会幹事

石田修『経済のグローバリゼーションと貿易構造』文真堂（2011年）など多くの著書、論文がある。